

HUMANE INTERNATIONAL NETWORK (HINT)

HINT News Letter No. 36 目次

- page1: コンゴへの緊急支援のお願い
 page1-3: アフリカの現実と未来
 page4: ベトナム事業報告
 page5: 私の出会ったコンゴ
 page6-7: 2012年度総会報告
 page7: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
 page8: 事務局からのお知らせ

コンゴへの緊急支援のお願い

日頃より、当会の奨学金事業にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。
 さて、既に報道にあるように、11月25日現在、反政府組織M23はコンゴ民主共和国の東部キブ州の州都ゴマを制圧しています。M23のスポークスマンは「われわれはゴマで止まらない。ブカブ(Bukavu)、キサングニ(Kisangani)、首都キンシャサ(Kinshasa)まで進む」(AFP)と述べ、状況のさらなる悪化が懸念されています。ゴマから200キロ程度しか離れていないブカブでは、北部からの避難民が押し寄せており、現地で生活する奨学生たちの状況も非常に不安定になっています。

これにより、理事会はブカブ地域を中心に活動を行っている現地コーディネータのワタキシ、タデー両氏の一時的な緊急避難を承認しました。加えて、当会の現地スタッフとしても協力してくれているアレン氏(両氏の息子、医学部在学中)が病気のために、手術を含む治療が必要となっていますが、将来的なプロジェクトの継続のためにも彼の入院治療を承認しました。

どうか、さらに厳しい生活を余儀なくされている現地の奨学生たちとコーディネータたちの安全をお祈りいただきますとともに、引き続き、皆さまの温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

振込先: ■郵便振替口座: 00120-1-596327 口座名義: 特定非営利活動法人 HINT

アフリカの現実と未来

2012年6月30日HINT総会記念講演として、真生会館において、元・在コートジボワール大使/日本大学国際関係学部教授 黒川祐次先生にご講演いただきました。

今回の講演では、コートジボワールの独立から現在に至る経緯を詳細にお話いただきましたが、紙幅の関係により割愛させていただきました。アフリカの多くの国が抱える国内政治に関する後半部分のみを掲載させていただきます。(詳細はカトリック社会問題研究所『福音と社会』265号に全文掲載されます)

日本大学国際関係学部教授 黒川祐次

◆アフリカの国内政治における共通点・コートジボワールの教訓

コートジボワールの経緯から、アフリカの国内政治がはらむいくつかの問題点を上げることができます。

第1に、民主主義的な権力継承のシステム、ないし慣習が確立されていない国では、“跡目相続”を巡って剥き出しの権力闘争が生じがちであること。アフリカの国々では最高権力者が後継者を決めながらも、多くの者が後継争いに参加すること

となり、「勝者の総取り」(Winner takes all)の下、闘争は熾烈を極め、合法・非合法のあらゆる手段が用いられます。

第2には、「アフリカの紛争はエスニックな対立が原因か」という問題。コートジボワールでも元々は個人間の権力闘争であったわけですが、頼れるものは同郷・同部族であるところから、そのまま部族間対立、宗教間対立の様相を濃くしていきます。すなわち部族間対立は抗争の原因というより結果に近いと思われま



第3に、「戦争も選挙も目的は同じ」という捉え方。権力の交代は実力行使(戦争)で行われてきました。現代の先進国ではそ

の意識とやり方が克服され、それに替わる手段として選挙制度が取り入れられ定着しているわけですが、先進諸国の人々は選挙が戦争の代替行為であることをすっかり忘れていて、しかし政権交代が流血を伴うアフリカの現状を目の当たりにすると、実は選挙と戦争が同じ目的をもって行われているものであることがよく分かるのです。

第4に、民主主義者も政権の座に就くと豹変する現実。「民主主義の肯定」や「反権力という錦の御旗」はしばしば、大向こう受けを狙った野党時代のスローガンに過ぎません。ジンバブエのムガベ、ケニアのキバキ、そしてコートジボワールのバグボ……いずれもその例でしょう。アフリカばかりでなくパキスタンでも二昔前にはそうでした。

そこで第5に、そうした意識を真に克服し民主主義を根付かせるためには、先進諸国による民主主義涵養のための支援が必要不可欠であるという問題点に留意しなければなりません。とくにその国の経済発

展が自力では難しい場合、ODAなど他国からの援助で下支えすることは、地域安定のためにも国際平和実現のためにも必須であろうと思われま

次に、コートジボワールにおける“失われた10年”の底流を、国際関係の観点からもう一度さらってみたいと思います。

○旧宗主国との関係 コートジボワールではボワニの下で40年間抑えられてきた反仏感情・ナショナリズムが、彼の死後、一挙に爆発した形です。現代統治論の立場から見てバグボの暴力的手段を肯定できるものではありませんが、ある面ではく反・旧宗主国ナショナリズムを代弁するものであったとも言え、それが国内で一定の支持を得たことは間違いありません。

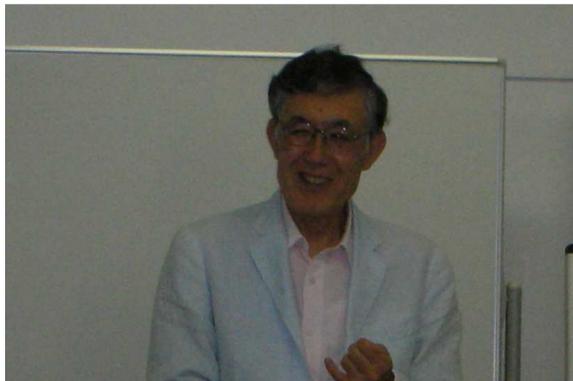
○旧宗主国の影響力 コートジボワールの例が示すとおり、旧宗主国の作為(もしくは不作為)は今なお、紛争の発生、継続、収束に大きな影響を持っています。仏軍の存在が強固な緩衝地帯となって国土二分を長期化させる結果となりました。また、紛争終結に際し最後の楔(クサビ)となったのも仏軍の圧倒的に強力な火力でした。

紛争解決能力という視点からは、「アフリカ連合」と「国連」の2キーワードを特筆しておきたいと思

○アフリカ連合 アフリカの国際機関による問題解決プロセスはコンセンサス重視であり、たいそう時間を要します。それでもAUや地域機関の権威が少しずつ高まっており、域内自治への対応力が評価されるようになりました。そうした域内自決機運の増大により各国政権にはく正当性が求められるようになり、それなしでは“仲間”としてやっていくことが難しくなりつつあります。

○国連 コートジボワールのケースでは、

フランスの都合で国連が一貫性のない方針を取り、紛争を長引かせる結果を招いたと言えます。当初、コートジボワールはフランスの“縄張り”だからと、口を出さなかったのです。同様の逡巡は現下のシリア情勢に対する国連の態度にも表われており、問題の背後にロシアの意向を窺うあまり、有効な手を打てずにいます。ただしコートジボワール問題では、最終局面で潘基文事務総長と崔英鎮（チェ・ヨンジン）事務総長現地特別代表が断固とした決意と連帯で紛争を終結させ、国連の紛争解決能力を再認識させました。



講演中の黒川先生

◆アフリカで国内紛争が起きやすく、解決しにくい理由

東西冷戦時代には、非民主的な政権でも西側陣営への帰属を表明すればアメリカやフランスから支持されました。しかし冷戦終結後、西側諸国がアフリカに注いできたそのような配慮は不要となり、現地政権には正真正銘の民主化を要求するようになったのです。しかしその理念普及や仕組み導入といった面で国民教育も政治勢力の理解も不十分、とても民主主義が根付いているとはいえない国で、突然、多党制や選挙制度の施行を求められては無理を避けられません。結果、ルール無視のまま個人間の権力闘争、部族対立になっていったのです。

民主主義の理念と仕組みが未成熟なアフリカの国々では、伝統社会の実質と名目

的近代国家制度が併存しています。これらの国はかつて、部族やムラに支配される伝統社会で、それなりの秩序が保たれていました。そこへ植民地諸帝国が西欧型の近代的国家制度を強制的に導入したわけです。1960年前後に独立を果たしたアフリカの国々では独立後、形の上では近代国家制度を継承したのですが、国民のメンタリティーは伝統社会のまま。つまり建て前は近代国家、実際の行動様式は伝統社会のまま推移してきたのです。

西欧から輸入された字面だけの法治国家では、国民と為政者は現実との乖離を気にしていません。例えば選挙制度を取り入れないと民主主義でないとして援助を打ち切られるので形式的に選挙を行います。選挙違反と暴力の横行が頻発しているのが現状です。

俗に『アフリカ人は政治家になりたがり、アジア人はビジネスマンになりたがる』といわれます。アフリカの伝統社会では富と力は直結しており、「公」と「私」の区別が曖昧です。政治家になれば自然にお金が入ってくるので、アフリカの人々は政治家になりたがるのです。ムラ社会では富も権力も小さなものにとどまるので彼らの政治志向が支障になることはありませんでした。しかし近代国家制度の下で得られる権力と富はケタ違いに大きく、それに気づいた権力者間の闘争は熾烈なものとならざるを得なくなりました。

また、伝統社会には近代国家が目指す権力の分立、チェック・アンド・バランスの観念がありません。権力闘争は常にAll or Nothing、勝者の総取りです。敗者には命の危険さえ伴います。闘争に妥協が成立しにくく、いったん権力を握った者はその座にしがみつ়のが通例です。素朴な武器を手にした小さな富と力を争って勝とうと志向する意識を、そのまま近代国家の権力に置き換えれば、武器の殺傷能力は飛躍的に増大し、近代国家の徴税システムによって得られる富も巨大なものになります。それが「勝者総取り」となるのですから、ボワニ

やバグボの行動パターンは必然であったともいえるでしょう。コートジボワールのケースは決して特殊な例ではないのです。

どうすれば私たちはアフリカに民主主義を根付かせ得るか、「自由」や「人権」といった概念を“借り物”“援助の代償”としてでなく、人間が本来持つべき基本的権利として意識させ得るか——概念としてはそれらを当然のものとして扱いつつ、まだ完全に「我がもの」としてはいえない私たちにとっても、それは意外に重い課題なのかもしれません。

講演者略歴・黒川祐次（くろかわ・ゆうじ）

1944年、愛知県生まれ。67年に東大教養学部卒業。日大で博士号取得（国際関係）。

1967年 在モンテリオール総領事（～89）

1996年 在ウクライナ特命全権大使（～99）

2002年 在コートジボワール特命全権大使（～04）退官後、日大国際関係学部教授。日本アフリカ学会、日本国際政治学会会員。

著書に「物語 ウクライナの歴史」（中公新書）ほか。

ベトナム事業報告

ベトナム担当 末吉孝幸

HINTのベトナム支援は、地元のカトリック教会による支援要請により、ベトナムの少数民族ラグライ族の住む貧しい地域であるタンハー村に、井戸や学校を建設したことがその端緒です。

その後、厳しい栄養状態の子供たちの栄養改善に役立てるために乳牛を4頭贈り、ミルクの配給を開始。あわせて地元の方々のために漢方薬用の薬草栽培、漢方医の育成、診療所の建設などに対する支援も行ってきました。

現在では、他のNGOの協力もあり、広大な地域で灌漑設備を整え、肉牛や豚の飼育、バイオマスによるガス設備や発電設備など、未来型の農業に向かって開発が続けられています。

タンハー村のクリニックは、毎週200名ほどの人々が訪れて、治療を受けています。薬草園は2ヘクタールあり、3種類の薬草を育てています。

地方政府も我々の活動を認め、漢方医の経験のために多くの医師が訪れています。地域のメディアでも宗教団体が貧しい人々に医療を提供していることを伝えてくれているとのこと。

HINTにおいては、特に、貧困地域の医療のために医師を目指しているシスター・リエン※の医学部の学費を支援しています。彼女はカントー大学医学部で学び、2012年に卒業しております。シスターの現在の状況の詳細につきましては、次回のニュースレターで報告ができると思います。

※ シスター・リエンは、この地域で、かねてより修道女（慈善活動と社会の修道会）として人々の医療のために高等看護師として働いてこられました。地元の人々はもちろん、長年この地域の開発を指導しているホアン司教の信認も篤い方です。



前回のニュースレターにおきまして、シスター・リエンは、この地域で貧しい人々のために働くソーシャルワーカーとともに、特に、今危機にある中で支援をくださるHINTのすべてのメンバーの皆さまに対し、その支援と援助に深い感謝をささげますと話しています。

今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

私が出会ったコンゴ

公務員 高田 真希子

皆さま、はじめまして。私は、2011年11月からHINTに参加させていただいています。

コンゴの子供たちを支援している団体を手伝いたいと思い、インターネットで検索したところ、HINTを発見しました。なぜ、コンゴの子供たちの支援に興味を持ったのかというと、昨年、個人的な旅行でコンゴを訪れたことがきっかけです。

私が訪れたのは、コンゴ民主共和国の南部、カタンガ州ルブンバシ市（首都キンシャサに次ぐ第二の都市です）とその周辺のリカシ市、キプシ市です。HINTが支援している子供たちが住む南キブ州よりも、治安が比較的安定している地域です。

市内には、制服を着て歩く子供たちの姿が多く見られました。そのため、最初は「皆、学校に通っているようだ。」と思いました。しかし、それは間違いでした。マーケットに行くと、物売りをしている子供が、車の回りに集まりました。ルブンバシ市民の生活は比較的安定しています。しかし、義務教育が事実上無料ではないため、子供の数が多く、上の子だけが学校に通い、下の子は学校へ行けずにマーケットで物売りをするというケースが多いそうです。



コンゴでの高田さん（左）

市内から出ると、街道沿いの小さな村は、電気が通っていないところも多く、側溝の泥水を汲んでいる姿も見かけました。集落に車を止めると、野菜や果物、食用の昆虫、炭酸飲料などを売ろうと子供達が集まります。子供たちが学校で勉強している時間

のはずである平日の昼間だというのに、炎天下の中、通りかかる車を待ち、お金を稼いでいるのです。また、鉱山近くには養生シートで作ったテント村があり、子供たちが劣悪な環境で生活している様子でした。

貧しさからか、出会うコンゴ人はほとんど全て、私のような外国人から少しでもお金を得ようとしています。警察、然り。空港の職員、然り。NGOの職員、然り。小学生、然り。腐敗を無くし、この国を豊かにするには、人々の思想の根源となる、教育が最も重要なのではないかと私は思いました。

とはいえ、私一人ではほとんど何もできません。同じような思いで活動しているHINTの仲間に加えていただきました。HINTの理事会に出席するうちに、ベトナムの活動にも興味を抱くようになりました。一人ではできることは少ないですが、皆さまと一緒にHINTの活動をこれからもお手伝いしたいと思います。

会費振込のお願い

お振り込みは同封の振込用紙を使用しただけか、下記口座へお振込みください。お願いします。

○賛助会員：1口5,000円から

○学生会員：1口2,000円から

振込先

■郵便振替口座：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行口座：

記号 10010 番号 26990711

（他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711）

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■銀行口座：三井住友銀行 新宿支店 普通預金 3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

2012年度総会報告

下記のとおり、2012年度総会を開催しました。
すべての議案が承認可決されましたので、ここにご報告いたします。

記

- 日時：2012年6月30日(土)16:00~17:00
- 場所：真生会館会議室 新宿区信濃町33
- 正会員数24名 出席会員数16名

1. 2011年度事業報告

詳細については事務局保管の議事録を参照してください。

2. 2011年度決算報告

右表をご覧ください。

3. 2012年度役員改選

代表	進藤重光(再任)
事務局長	石田達也(再任)
事務局長代行	長野圭子(再任)
総括担当	高橋 章(再任)
ベトナム担当	末吉孝幸(再任)
広報担当	桐山泰証(再任)
情報担当	酒井 匠(再任)
IT担当	竹村太郎(再任)
アフリカ担当	藤井記雄(新任)
監事	国府俊明(再任)

4. 2012年度事業計画

詳細については事務局保管の議事録を参照してください。

5. 2012年度予算計画

次ページをご覧ください。

6. 定款の一部変更について

定款第2条の事務所住所を中野区上高田3丁目24番7号に変更しました。

お手伝いしてください!

HINTはサラリーマンが中心になって活動をしています。月に一度の理事会は最終土曜日16:00から真生会館で開催しています。会員でなくても、役員にならなくても、参加できます。

一度のぞいてみませんか。あなたにもできるボランティアがきっと見つかります。

2. 2011年度決算報告

(2011年5月1日~2012年4月30日)

単位：円

収入の部	
1. 会費収入	
正会員収入	170,000
賛助会員収入	597,000
2. 事業収入	
講演会・学習会	35,000
普及啓発事業収入	114,300
3. 寄付金収入	
会員寄付金収入	318,795
4. 助成金収入	
助成金収入	0
5. その他	
受取利息	54
当期収入合計(A)	1,235,149
前期繰越金	199,324
収入合計(B)	1,434,473
支出の部	
1. 事業費	
経済的支援事業	
ベトナム保健医療支援事業	170,300
コンゴ学資援助事業	571,937
普及啓発事業費	16,275
広報事業費	29,440
事業費 合計	787,952
2. 管理費	
通信費	4,670
送金費	10,315
会議費	0
旅費交通費	0
事務用品費	1,470
消耗品費	0
図書費	0
渉外費	0
租税公課	0
印刷費	0
雑費	1,605
管理費 合計	18,060
当期支出合計(C)	806,012
当期収支差額(A)-(C)	429,137
次期繰越収支差額(B)-(C)	628,461

5. 2012年度予算計画

(2012年5月1日～2013年4月30日)

単位：円

収入の部	
1. 会費収入	
正会員収入	240,000
賛助会員収入	400,000
2. 事業収入	
講演会・学習会	10,000
普及啓発事業収入	200,000
3. 寄付金収入	
会員寄付金収入	200,000
4. 助成金収入	
助成金収入	200,000
5. その他	
受取利息	1,000
当期収入合計(A)	1,251,000
前期繰越金	628,461
収入合計(B)	1,879,461
支出の部	
1. 事業費	
経済的支援事業	
ベトナム保健医療支 援事業	600,000
コンゴ学資援助事業	800,000
普及啓発事業費	120,000
広報事業費	100,000
事業費 合計	1,620,000
2. 管理費	
通信費	30,000
送金費	20,000
会議費	20,000
旅費交通費	20,000
事務用品費	30,000
消耗品費	30,000
図書費	20,000
渉外費	30,000
租税公課	1,000
印刷費	0
雑費	58,461
管理費 合計	259,461
当期支出合計(C)	1,879,461

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿

(2012/5/1～2012/10/31・順不同・敬称略)

ご支援・ご協力ありがとうございました。

櫻井 洋	末永 恵子
棒 亮平	渡辺 潤子
前田 陽一	岸田 万紀子
築木 純夫	国分 一也
山田 篤	高田 真希子
佐賀 邦夫	グエン・テ・ホン
安藤 和彦	禹 満
小林 貞	黒川 祐次
西 道弘	池田 ゆう子
石原 達哉	佐藤 健一
中本 裕之	品田 和之
大野 容子	村上 夫光子
國府 俊明	香取 嘉憲
末永秀雄・美津代	窪田 愛子
東矢 高明	西嶋 久恵
藤井 記雄	高澤 佳代乃
古城 かほる	酒井 匠
石間 裕	井上 静子
上村 武夫	石田 達也
島田 恒	奥本 直子
畠山 千秋	都藤 清美
支倉 崇晴	匿名の皆様

★上記期間内に会費を納入されている方
やご寄付をされている方で、名簿に載っ
ていない方は、お手数ですが事務局までご連
絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されていま
す。

年会費 5000 円で、ベトナムでは約 500 人
分の給食を提供できます。コンゴでは中高
生約 2 人分の 1 年間の学費です。皆さまの
ご支援ご協力をお願い申し上げます。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方
の最終振込み日です。

★2 年間会費のお振り込みのない場合は、

会員資格を失い、以後ニュースレター等の送付が行われなくなります。

★振込先は、5ページをご覧ください。郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

HINT 事務局からのお知らせ

《活動報告》

● 2012 年度総会を開催しました

日時：2012年6月30日(土)16:00~17:00

場所：真生会館会議室 新宿区信濃町33

2011 年度事業報告及び決算報告、2012 年度役員選挙、事業計画、予算計画、定款一部変更などについて話し合われました。総会報告が6~7 ページに掲載されています。

同日、記念講演として日本大学教授黒川祐次先生にアフリカの現実と未来についてご講演いただきました。1~3 ページに講演抜粋を掲載しましたので、あわせてお読みください。

● チャリティーコンサートに参加しました

日時：2012年8月26日(日)13:30~16:00

場所：赤羽教会

恒例となった赤羽教会のチャリティーコンサートで、チャリティー実行委員会よりご寄付をいただきました。HINT は、支援先各国の雑貨などを通して、活動を紹介しました。

● グローバルフェスタ JAPAN2012 に出展しました

日時：2012年10月6日(土)、7日(日)

場所：日比谷公園

2 日目はあいにくの雨になりましたが、日比谷公園で都市フェアが同時開催されていたためか、多くの来場者がありました。

HINT の活動を、現地の雑貨紹介を通じて、PR することが出来ました。

● エポペクリスマスパーティーのお知らせ

日時：2012年12月22日(土)

降誕ミサ：18:00~19:00

(司式：オリビエ・シェガレ神父)

チャリティーパーティー：19:00~21:00

会費：7,000円(飲み放題・食べ放題)

(未就学児無料)

場所：ホテルグランドパレス

レストラン「カトレア」

東京都千代田区飯田橋1-1-1

地下鉄九段下駅 徒歩1分

JR・地下鉄飯田橋駅 徒歩7分

ご予約・お問い合わせ：エポペ・チャリティー・クリスマス実行委員会事務局

<http://www.epopee.co.jp/toiawase.shtml>

★会場の都合上、予約の申し込みをお願いいたします。

● HINT 事務局移転のお知らせ

HINT 事務局は2012年6月30日に、下記の住所に移転が完了しました。

164-0002 中野区上高田3-24-7 平兵衛内

電話&FAX:03-6279-1080

今後ともよろしく願いいたします。

<特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局>

〒164-0002 東京都中野区上高田3-24-7 平兵衛内

電話&FAX:03-6279-1080

E-mail:hint_info@epopee.co.jp

Web:<http://www.epopee.co.jp/hint>

*HINT 事務局は6月30日に上記住所に移転しました。